

平成元年～

ベルリンの壁が崩され、東西ドイツの統一がなされた。一方で、湾岸戦争が勃発した。日本では、バブルが崩壊し、失われた20年と呼ばれる低成長期に突入した。県内では、べにばな国体が開催され、山形新幹線が開通した。

児童生徒数の移り変わり

	小学校	中学校
平成元年	99,415	53,062
平成2年	97,269	52,197
平成4年	93,135	51,371
平成6年	89,386	49,043
平成8年	86,139	47,130

山形県教育関係者名簿より



第47回国民体育大会

マスゲームで盛り上げたべにばな国体



導入された生活科



オープン教室での授業



武道の授業研究会



ランチルームで楽しい給食



パソコンが初めて学校に



郷土理解の資料として数多く発刊された＜山形県版出版物＞

昭和12年頃、山形県教育会から「おさらい帳」が発行されました。本県児童生徒のための、地域に根ざした教材の歴史の始まりでした。昭和29年（1954）には指導主事の先生を監修者としてリニューアルされ、昭和31年からは弊社が発行することになりました。また、昭和40年に「のびゆく郷土」（現：「わたしたちの山形県」）、昭和40年代後半には「やまがた小・中学生の読書」（現：「中学生の読書」）や「山形県小学校道徳資料集」などが発刊されました。昭和50年代になると“郷土文化シリーズ”が次々に発刊され、「山形の〇〇〇」が県内の学校図書館などで利用されました。平成10年代までの間に、歴史・科学・食物・遊び・文学など様々なジャンルの出版物が編集されました。すべてが、県内の小・中・高校の先生方が中心となって編集されたものです。夜を徹して編集会議をし、休みの日には県内各地に取材に出かけるなど、校長先生方のご理解をいただきながら、各教科部会などの先生方の組織が作りあげた多くの出版物は、今も県内外から高い評価を受けています。